

広報委員会結果報告

日 時：令和5年1月16日（月）

午後1時30分～午後2時45分

場 所：委員会室

出席委員：委員長 加藤美幸 副委員長 中村和也

委 員 伊藤正興 芳金秀展 山田清一

オブザーバー 副議長 山本半治

欠席委員：澤田勝

1. 開会 中村和也副委員長
2. あいさつ 加藤美幸委員長
3. 参加者紹介 中埜総合印刷（株） 田中雄三氏、長尾猛氏
4. 意見交換

○テーマ「分かりやすく、親しみやすい紙面づくりについて」

○主な意見

■文字数、書体（フォント）について

- ・文字数が全体的に多い。
- ・文字数を思い切って減らし挿絵を入れるなどし、ぱっと開いて何が書かれているかわかるように、見せ方の工夫が必要である。
- ・ユニバーサルフォントはデザイン性に乏しいが、タイトルなどは見やすい。

■フルカラー化について

- ・紙面のフルカラー化以前に、掲載内容（中身）の見直しをしないことには読んでもらえる紙面にはならない。

■カラー、レイアウトなどの見直しについて

- ・行間や文字の大きさの見直しを行い、読みやすいレイアウトにする必要がある。
- ・2色カラーの組み合わせによっては、視覚障がいのある方などには見づらいことがあるため、視認性についても配慮することが必要である。
- ・視認性を考慮した場合、デザイン性には少し欠ける。
- ・表紙の目次は、各号の目玉を大きく記載するとより見やすくなる。
- ・写真の配置場所の工夫、イラストを必ず入れるなどして興味をひくレイアウトにする。
- ・幅広い年齢層に読んでもらえるような紙面構成は難しい。若者に興味がありそうなページを作成するなど各号で工夫が必要。
- ・印刷業者側としては、年度の途中でもレイアウトの変更は可能である。但し、サンプル作成期間と調整期間として2～3か月必要である。

5. 閉会